

## 川上村地域づくりインターン報告書

神戸夙川学院大学  
観光文化学部 観光文化学科  
3回生 豊 美貴子

### ●インターン事業に参加した理由

以前大学で「自然環境保全論」という講義を受講していました。その講義による課外授業として奈良県川上村へ訪れたことがきっかけでした。その課外授業というのは1泊2日という短い間でしたが、川上村の抱える様々な問題点に触れたり、自然の美しさを堪能したり、なにより村の人たちのあたたかさに胸を打たれました。もう一度川上村へ行く機会があればいいなと思っていた矢先にこの地域づくりインターンのお話を耳にして、参加させていただきました。

### ●インターン事業に参加するにあたっての目標

課外授業の1泊2日に比べて、インターン事業は14日間もあり、川上村のことを全体的に学ぶには難しい時間ではあるが、とても貴重な時間なので課外授業では調べることの出来なかった村の様々な問題点に触れること、そしてただ問題点に触れるだけではなく、触れてどう感じたかといったところに重点をおきました。そしてインターン事業ではたくさんの人に出会う機会でもあるので、人ひとりひとりとの出会いを大切に、できるだけたくさんの人と話すことが目標でした。

### ●インターンスケジュール

- 6日（金） インターン生到着 インターン事業概要説明  
森と水の源流館にて水源地のむらづくりのお話  
役場職員と懇親会
- 7日（土） 遊水フェスタの準備  
（旗立て、テント張り、それぞれ出店の出品チェック  
流しそうめんの竹台作り、位置確認、音響確認）
- 8日（日） 遊水フェスタ当日 イベントスタッフとしての参加  
（アマゴつかみ、アマゴの塩焼き売り場担当  
流しそうめん担当）

- 9日（月） ホームページづくり、こんにやくづくり体験  
（ホームページづくりは役場でやり、  
こんにやくづくり体験は大辻さん宅でやりました。）
- 10日（火） 水源地の森見学  
（インターン生、源流館スタッフ、環境省の人たちと見学）
- 11日（水） 樽丸づくり体験  
（酒樽の素材の加工作業体験）
- 12日（木） 村内散策  
（私は体調不良のためお休みしました）
- 13日（金） 村内散策  
（午前にもくもく館を見学、辻谷さんによる吉野林業のお話  
午後には匠のむらへ行き、陶芸体験）

本当は19日までがインターンスケジュールなのだが  
私は諸事情により帰宅。再び9月20日から22日の  
2泊3日インターン事業へ参加。

- 20日（月） 役場到着 大滝ダム学べる建設ステーション見学  
（ダム見学では豪雨体験をさせてもらう）  
匠のむらへ行き、洋画家小西保文アトリエ見学
- 21日（火） 森口さんによる吉野林業のお話  
川上さぶり見学  
（吉野林業、村の経済面、過疎化のお話）
- 22日（水） インターンまとめ 発表会

### ●問題点 「人口減少～2000人以下の村～」

調べたところによると、川上村の現在の人口はなんと1900人を割り込み年々減少しているというデータでした。若年層や児童数までもが減り、高校卒業と同時に就職を求めて都市へ出る人、または県外へ大学進学する人が多いというケースも多々あるようです。そんな川上村だが、昭和30年半ばには8000人を越えていたということには驚きました。人口減少が今でも続く川上村の背景には高齢化が急速に進んでいるというデータも見られました。65歳以上の高齢者がなんと50%を越えるまでに至っているということです。それに高齢者といっても元気な高齢者ばかりだそうです。

### ●なぜ元気な高齢者ばかりなのか？

村の人から話を聞くと、昔から畑仕事をしていて体が丈夫なため今も元気な高齢者が多いということでした。林業も盛んなうえに、自分で手入れしている畑をもっているという家も多いため体力気力のある高齢者がたくさんいるようです。それに高齢者が元気な秘訣は他にもあることに気づきました。それは食事バランスです。肉などはあまり食べず、自分の畑で取れた新鮮な野菜などを口にしてきたため病気などにもならない高齢者ばかりだそうです。それに川上村では水が美味しいのも理由の一つではないかと私自身は思いました。

### ●川上村へのささやかな提案

#### 1、インターン生と小・中学生との交流の場をもうける

小学校が一つしかない川上村では、児童数もわずか30人あまりということ。そんな貴重な児童たちとインターン生とのふれあいの時間というのはすごくいい機会ではないかと私は思いました。なぜかというと、子供にインターン生から見た村のこと、そして県外のこと、なにか伝えられるものがあるのではないかと思ったからです。まだ年頃も年頃なので村の現状がよくわからない子供もたくさんいるはずなので、ただふれあうということだけでも子供にとってはいいのではないのでしょうか。それにインターン生から村の子供たちを見るという視点にいたってもたくさん学べるがあると思います。そういった点では私たちにとってもいい体験になるはずです。

#### 2、特産物PR

私が川上村を2度訪れて印象に残ったことは実は「特産物」でもあるのです。インターン事業の内容にこんにやくづくりというのがあったのですが、そこでいただいた自家製のこんにやくだったり、柿の葉寿司だったり、アユ・アマゴの塩焼きだったりその他にもたくさんあるのです。私はこの素敵な特産物を県

外の人にも知ってもらいたいと思うのです。では実際県外の人に川上村の特産物を知ってもらうにはどういったことをすればいいのか考えたところ、大学祭で特産物を売るということもひとつではないかと思いました。学生にとっては嬉しい安価で販売する、インターン生が川上村の話をしながら販売する、川上村の人が実際大学祭に来て販売するなどいろいろな販売の仕方があります。そこでより多くの人に川上村特産物のことを知ってもらえばいいなと思います。

#### ●インターン事業を通じて全体の感想

就職活動前にとってインターン事業は本当にいい体験となりました。20年住み慣れた町を離れて、県外のある小さな村へ訪れて数日生活するという事に初めは不安を抱えていましたが、そんな不安もまったく感じないくらい川上村の人たちはみんなあたたかく迎え入れていただいて嬉しかったです。社会人目前である今、たくさんの人に出会い、いろいろなお話を聞いたことも本当にいい体験でした。いろいろためになる話も多く、これから活かせることばかりでした。今回インターン事業では村の様々な問題点に触れました。そのなかにもあった環境問題についてはこれから個人的にいろいろ調べて携わっていきたいです。